

相互交流・研鑽の場としての「木鶏塾」

公益財団法人 東京都医療保健協会 練馬総合病院 漢方医学センター長 中田 英之

現代では、漢方に限らず情報が氾濫している。多くの情報から真に必要な正しい情報を汲み取り、身につけるにはどうすればよいか。

練馬総合病院漢方医学センター長の中田英之先生は、多くの人が混ざり合い、互いに研鑽を深める場が必要と考え「木鶏塾」を立ち上げた。さらに、インターネットを利用したオリジナルの漢方講座をライブ放映するなど、多彩な活動を行っている。今回は、その仕掛け人である中田先生にお話をうかがった。

産婦人科から漢方専門医に

私は防衛医科大学の産婦人科教室に入局し、その後、産婦人科医として勤務してきました。大学病院の産婦人科では、がん、子宮筋腫、子宮脱などへの外科的治療や不妊症や月経困難症の患者さんへのホルモン治療が主流でしたが、実際にはこのような西洋医学的な治療では改善しない患者さんが多くいらっしゃいました。

たとえば、月経時の不快感や眩暈などの症状で受診を繰り返しても、なかなか症状が改善しないため、明確な原因が分からないまま最終的に「心の病」として扱われてしまい、向精神薬などが処方される患者さんも大勢いらっしゃいました。「薬をもすがる思い」で大学病院を受診されている患者さん達に対して、私はその「薬」の一本になれば本望だと考えました。その「薬」の中の一冊に「漢方医療」があったのです。また、防衛医官として長年、自衛隊に勤務する間に、隊員の駅伝チームの強化を任されて漢方を応用したり、一線部隊で漢方を運用することで驚くほどの効果があることを目の当たりにしているうちに、漢方医として広く社会に役立つ仕事をしたいと

思うようになり、自衛隊を辞めて慶應義塾大学の漢方医学講座(当時)に所属することになりました。

漢方医学的アプローチの有用性

慶應義塾大学の漢方医学講座に所属していた頃に、現練馬総合病院の外科で勤務されている先生との出会いがありました。先生は以前から漢方診療の必要性を理解されており、当院の院長にも折りに触れてお話しされていました。その働きかけもあって、2008年から漢方外来が試験的に始まることになりました。蓋を開けてみると、漢方外来開始早々から院内職員の受診も多く、次第に院内でも認知されはじめ、翌年からは私も常勤医として勤務することになり、本格的に漢方診療が開始されることになりました。

漢方外来では、患者さんの症状を緩和することを第一の目的としています。そのため、漢方治療が適応となる病態は、薬物治療だけではコントロールできなかった頭痛、腰痛、痺れや冷えなど、また西洋医学的には難治性の皮膚の掻痒感・乾燥、眩暈、耳鳴り、胸の痞え、咽の違和感、動悸、慢性の下痢、便秘、腹痛など、さらには月経困難症、月経前症候群(PMS)、月

経不順、更年期障害、冷え性、不妊症、反復性の膣炎、帯下増加などといった多くの女性疾患もその対象となるなど、多岐にわたります。漢方の診断システムは西洋医学のそれとは異なりますので、西洋医学的治療のように常に白・黒をはっきりさせる必要はなく、漢方治療ではグレーなものはグレーのまま引き受けることが可能です。そのため、たとえ西洋医学的には原因不明の疾患であっても、治療と言いますか、介入が可能になります。私の漢方診療の基本には、大げさなものは何もありません。「目の前の事実をありのままに受け入れることを心がける」ただ、これだけです。

正しい情報発信をめざして

漢方外来を続けているうちに漢方に関する問い合わせも次第に増え、正しい情報を発信する必要性を感じるようになりました。そこで、漢方医学センターが設立されたわけです。

センター構想は当院の方針の1つでもあり、現在6つのセンターがあります。その使命は、診療だけでなく教育と研究も加えた3つの活動になります。漢方医学センターでも、漢方外来での診療に加

え、教育や研究活動にも力を注ぐことになり、その一環として昨年から漢方医学講座を開催し、公開しています。

漢方医学講座は、本講座と特別講座の2部構成となっており、それぞれの講座は独立していますので、自分にあった講座を選択し受講することが可能です(表1)。本講座は系統的に漢方を学習することを目的としており、漢方診療、調剤、薬膳、養生など漢方医学各分野にわたる基礎を身につけることができます。原則として毎月2回程度開催され、毎回約40～50名の参加があります。

一方、特別講座も複数のプログラムを用意していますが、より多くの人に参加し、交わっていただきたいと考え、インターネットを使ってライブ配信しています。ライブ配信をすることで分かったことがあります。この新しい手法は、

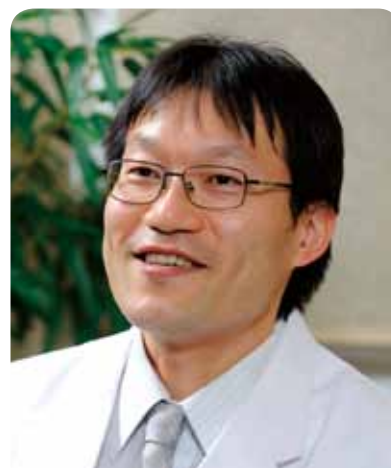
双方向の議論を可能にするだけでなく、不特定多数の方が視聴することにより、講義の内容も格段にレベルアップさせるのです。これは、予想外の出来事でした。

特別講座のライブ配信は漢方メーカー数社の協力のもと実施しており、その一つである「いろはに漢方練馬勉強会」は、すでに今年の開催予定が決まっていますので、多くの方に参加していただければと思います(表2)。また今後は、鍼灸なども取り入れた新しいプログラムも計画中です。

「木鶏塾」とは

情報網の発達により、玉石混合しかも大量の情報が飛び交うようになりました。これは漢方の世界でも同じです。大家と呼ばれる人から経験が浅い人まで、独自の経験をもとに「漢方はかくあるべし」という情報が氾濫しています。このような状況下でどの情報を採用し、どの情報を無視するか、そして、どのような情報を発信すべきか、高度な判断能力が問われるようになりました。

私は、このような問題を解決するには交わり合うことが重要と考え、漢方に興味を持つ方々の相互研鑽の場として「木鶏塾」を立ち上



1995年	防衛医科大学校 卒業
同年	同大学校 産婦人科 入局
2005年まで	防衛庁医官として、同大学校産婦人科、自衛隊中央病院、自衛隊仙台病院のほか、第六後方支援連隊にて部隊勤務
2005年	慶應義塾大学医学部 漢方医学講座(当時)所属
2009年	練馬総合病院 漢方内科外来担当・健康医学センター長就任
2011年	同院 漢方医学センター長就任

げました。「木鶏」とは言うまでもなく、「莊子」の故事にある「これを望むに木鶏に似たり」から名づけたもので、木鶏の如く、徳(心と知識を含む)を身につけ、右往左往することなく、歩むことができるようになるための勉強する場という気持ちを込めています。先ほど述べました漢方医学の公開講座を含め、現在進めている一連の活動はすべてこの「木鶏塾」の基本理念に従って運営されています(表3)。

最後に中田先生は、「漢方医療が正しく普及し医療の隙間に放置されている多くの患者さんに少しでも貢献したいという熱い想いをこの『木鶏塾』に込めています」と強調されました。

表1 公開漢方医学講座の概要(2011年度)

漢方講座スケジュール		
本講座	開 講 式	漢方医学総論
	)	漢方基礎(全20回)
		漢方処方学(全18回)
		医学史(全11回)
	修 了 式	『現代における漢方の役割』
特別講座	張錫純研究会	
	いろはに漢方練馬勉強会	
	練馬漢方アカデミー	

※ 詳細はウェブをご覧ください。
練馬総合病院 漢方医学センター 木鶏塾
http://www.nerima-hosp.or.jp/center/08_2.html

表2 いろはに漢方練馬勉強会(2012年度)

	開催日	テーマ
第1回	8月4日(土)	生薬学の講義および実習(予定)
第2回	11月10日(土)	未定

※ ご興味のある方はクラシエ薬品株式会社東京医薬支店
03-5847-0828 までご連絡ください。

表3 「木鶏塾」の基本理念

勉学に励む	何事も常に自分で確認する。教えられたことをそのまま受け入れるのではなくその本質を知るように努めること。
信念を持つ	周囲に流されない確固たる心を持ちながらも、万事において固執せず柔軟に真実を受け入れる精神を養うこと。
徳を持って社会に貢献する	努力して得た知識や技術は、家族や社会のために使うこと。